

会 議 報 告 書

会議名	第8回 第2次 21世紀矢板市総合計画 策定検討委員会
日 時	平成22年5月20日(木)午後7時00分～8時45分
場 所	市役所 2階 本館会議室
出席者	市 只木秘書政策室長、鈴木政策班長 政策班 和田副主幹、手塚主査 策定委員 10名

1 開 会 19:00

開会及び資料の確認

2 あいさつ(会長)

今日は2点ほど検討事項がありますので、皆さんの意見等を市の総合計画に反映させていただいて、より良い矢板市になっていけるようお願いしたい。

3 検討事項(進行:会長)

「骨子(案)の構成」について(事務局説明)

皆さんのご意見をいただいた「中間提言書」を基に作成した「骨子(案)」について、庁内にて検討を始めた。また、先日議会でも内容についての説明をしたところである。

人口フレームについては、実現可能な範囲内で最大の目標値を設定したいと思っているので、それを含めてご検討いただきたい。

* 資料に沿って説明

市民アンケートの分析結果について説明

昨年実施したアンケート結果について分析を行った。今回は代表的なもののみ抽出して男女別、年齢別の傾向を分析。簡単なコメントは下部に総括して表示してある。施策の展開につなげる上で、良い理由より悪い理由を解消するための評価を具体的に把握していく。

意見等

(委員)

アンケートでも挙がっていたが、雇用の確保については、特に20～30才代にとっては重点項目でもあり、1番大事なことだと思う。企業誘致などで、何らかの積極姿勢が出せれば良い。それに関連して、共働き家庭の子ども保育サービスの充実などが課題になってくる。

財政健全化計画について説明

この計画が策定された平成17年当時は、市町村合併をしないで矢板市は単独でやっていくということを決めた時期である。国の三位一体の改革などにより、交付金の削減等が財政運営を逼迫するという状況であった。そこで、市の財政運営を健全にしていこうという趣旨により、自主的に定めて始まった計画である。

年1回、外部委員で構成する検討委員会にて毎年の取組状況を報告し、意見をいただいている。あくまでも自発的に決めた削減項目を実施していくというスタンスである。

次期総合計画には、一つの分野（施策）として項目を設ける予定。

意見等

（委員）

この計画により、区長の報酬などは減額された。市長や市職員の給料も減額されている。議員の報酬は減らさないのか。

議会は独立しているので、「報酬カット」等については、自発的に提案いただかないと難しい。平成19年度に議員定数を22名から16名に自発的に削減した。また、政務調査費も見直しを行っているので、対外的には評価は高い。

（委員）

議員はボランティアという考え方もある。現に福島県矢祭町のように日当制になっている自治体もある。議員の皆さん方に「今、市のために議員が何ができるか」を問うてみたい。議員数が多くても、報酬が少なければ、費用対効果は高い。本当にいらぬものを削るスタンスで良い。

（委員）

公務員の給料を下げると、それに倣い民間の会社も下げることが多いので、景気が良くなる。

（委員）

この計画の期間が終了するにあたり、5年間の成果を総括（検証）する必要があるだろう。その際の効果の検証について、金銭的には見えやすいのだが、策定当時（H17）と比べて“経費は減っているのだがパフォーマンスも落ちている部分”についてはどう計るのか、難しい。

（委員）

例えば、市の工事で一般競争入札により市外の業者と1千万円安く契約できても、市の活性化には繋がらない。予算を節約できたとしても、市のお金が外へ流れてはあまり効果がない。少しぐらい高くても地元の業者が取ることにより、お金が地元へ落ちるほうが、市の経済のためにはずっと良いことになる。見方によって効果は違うが、それを検証するのは難しいこと。

（委員）

市として真剣に財政削減に取り組んでいるのは分かるが、ただもう少し「夢」の部分欲しい。まちづくりにおける積極性が見えない。財健の数字にばかり目を向けてばかりいると、財政状況はそこそこ良いのだが、まちが発展しない。少しぐらい投機的経費を投入して借金を負っても、人口が増え景気が良くなるということも必要と考える。財政健全化は目的ではない。

（委員）

投資したものが矢板の人の利益になれば良い、そうすれば外には出ない。作ったものから利益が生まれ、市の中で循環するような方法がないか。

（委員）

ファーマーズマーケットでは 20 億円ぐらい利益をあげている所がある。市外の人がわざわざ買い物に来て、まちにお金を落としていく。ないものねだりをしては仕方がないので、今あるもので勝負する。

(委員)

栃木県が茨城県に持っている海浜自然の家で、栃木県産の野菜や果物等を使ってもらうことはできないか。毎年かなりの数の利用者がいるのだから、その分を栃木県にて賄えれば活性化につながるのでは。

(委員)

廃校になった学校(旧長井小学校)について、市外の自治体に宿泊学習などに使ってもらうような提案をしてみてもは。近くの塩谷町の旧熊ノ木小学校ではNPOが主体で、受入を行っている。ネットなどにより広く公募するのも良いかも。

(委員)

大田原市で実施が始まった「子宮頸がんワクチン接種」が非常に注目されている。

「子どもに手厚い」など一点豪華主義を目指すのも良いかもしれない。住む地域を選ぶ際の重要なファクターになる。その点を、市の特徴として前面に打ち出す。

(委員)

市民力を集める方法として、みんなにそれぞれ「市のために、あなたは何ができますか？」を問い、自分の得意とする分野に加わってもらうことも有りかなと思う。アメリカの学校では入学と同時に5つぐらいボランティア(学校のこと)をやらされるということを知った。自分の生活を守ることをプラスで市のためにできることを考えていく。それが市の活性化に繋がり、自分たちの将来に繋がる、そういうことが必要である。常時動けるボランティアネットワークの構築などが出来ると良い。

(委員)

山梨県の農家に行き、農作業を手伝うとポイントが貯まる自治体がある。ポイントが貯まると、介護の分野などのサービス(対価)が受けられる。見えない部分でのメリットが大きい。渋谷区でも、ポイントが貯まるボランティアの制度があるらしい。楽しみながら参加・協力できる仕組みが欲しい。

(委員)

矢板において、「市民力」はまあまあ浸透してきているような気がする。いろんな組織が個々に活動しているが、今後はどんな人がいてどんなことが出来るかを把握し、繋げていく場所(サポートセンターのような拠点)があると良い。

(委員)

登録制の組織でも、シルバー人材センター(理由:年齢枠があるので)以外でそういう組織があれば良い。若い人や女性が簡単に参加できるようなものがあると良いと思う。

今後の進め方

今回は、基本構想の骨子(案)の内容について検討する。それと並行して基本計画(具体的施策)の部分についても検討を進める。

また、次回までに、本日配布した資料を基に、興味のある部分について内容及び目標

値の設定などについて考えてきて欲しい。

次回の開催日程は未定。6月中には開催したいと思っているので、決定次第通知する。

4 閉会 20:45